

平成 25 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	継続型
事業名称	出る杭を育てる：タイアップ・キャリアセミナー
取組代表者名 担当者名	<p>* 事業担当者は全員記入してください。</p> <p>三浦 徹（文教育学部、教授、取組代表）</p> <p>永瀬 伸子（生活科学部、教授）</p> <p>最上 善広（理学部、教授）</p>

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

学生支援 GP「出る杭を育てる：企業で女性が輝くための学生支援」（20-23 年度）において実施した「タイアップ・キャリアセミナー」を継続し、企業で活躍し起業する女性リーダーを育成する。

本事業は、出る杭 GP 事業のうち、タイアップ・キャリアセミナーを中心とし、上記学生サークル「お茶大ビジネスフォーラム」（略称お茶ビズ）と連携して、学生の主体的なキャリアアップ事業を展開した。具体的には、①お茶大生による「よくわかるマーケティング（ビジネス・プラン）講座（5回、6-7月）と②キャリア OG 懇談会と学生ビジネスコンテストへの応募（10月）③ビジネス・プラン発表会（審査会を含む、11月9日徽音祭において）を実施した。学生サークルおよび（株）コラボラボと連携して、企画・運営にあたり、坪田秀子学長特別顧問（株式会社ロレアル前副社長）の協力もえた。講座・セミナー参加学生はグループを組みプランニングを行い、当初参加 20 名のうち、最終発表会までがんばって到達した 12 名が発表を行った。

25 年度は徽音祭（学園祭）においてビジネス・プラン発表会を開催し、OG や学外からの入場者もえた。評価委員（事業担当者、学外専門家、お茶ビズ OG など）と一般参加者の投票により、4 つのグループのうち「異世代♥女子会」がグランプリを獲得した。（大学ウェブサイトに報告記事掲載 <http://www.ocha.ac.jp/news/h251210.html>）。

当該ビジネスプランは、一般社団法人学生サポートセンター「学生ビジネスプランコンテスト」において入賞し（努力賞）、2014 年 1 月 27 日の授賞式には、当該グループ代表とお茶ビズメンバーが出席した。「異世代♥女子会」の企画内容はつぎのとおり「いくつになっても女子は女子。一人暮らしの女子学生とおばあちゃんを料理でマッチング。一緒に作って！食べて！喋って！異世代交流」。

本事業は、学生自身の企画・運営によるキャリアアップであることが大きな特徴である。本事業のセミナー参加者のなかから、次年度の企画運営者を募り、バトンリレー方式で事業を継続している。プラン発表会には、お茶ビズの卒業生（OG、企業・官庁就職者）も駆けつけ、懇親会を開催し、現役と OG の交流の場となっている。起業家であるコラボラボ横田響子代表の実践的なアドバイスが得られることは、お茶ビズにとっても、セミナー参加者にとっても大きな刺激・魅力となっている。他方、授業やサークルや各種キャリアセミナーがメジロ押しのなかで、半年にわたってグループ作業をつづけることは、持続的な意志と行動力が必要となる。最終発表会まで到達した学生は、それだけの「出る杭」力を養ったといえる。そのなかから、次期のお茶ビズメンバーが生まれ、企画者（伝授する側）となって、その力を発展させている。

2. 今後の取組み継続に係る実施体制及び資金確保の状況について

本経費は、学外の競争的資金等によるプロジェクトで、プロジェクト実施期間終了後も引き続き取組みを継続するための体制を整備するために配分されたものです。本経費の支援期間終了後の実施体制及び資金確保の状況について記述してください。

26年度は、24-25年度と同様の企画を実施するとともに、お茶大ビジネスフォーラムと(株)コラボラボ横田響子氏の連携による運営体制の定着をはかる。運営にあたっては、学生キャリア支援チームおよび学生キャリア支援センター教員、広報チームの協力を得ている。予算面での節減をはかり、27年度以降は、学生・キャリア支援事業のひとつとして組み入れることをめざす。